

<p>会報 第83号</p>	<p>Mt. Iwaki Conservation Association</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2020年12月24日 発行 岩木山を考える会 会長 小堀英憲</p>
--------------------	---	--

今後の予定

第27回写真展「私の岩木山」開催と出品、 会場展示のお願い

毎年恒例の写真展「私の岩木山」を下記の要綱で開催します。

日時 2021年 2月19日(金)12時～21日(日)16時

開館時間 9時～20時

開催場所 百石町展示館(例年のNHKホールは、新型コロナの影響で年度内閉鎖となつたため、会場を変更しております。)

出展準備 2月19日(金)午前9時から12時

※ 出品する方は同封の「出品票」に必要事項を記入の上、10時までにご持参ください。

※ 「出品票」のみ早目にお近くの幹事に提出下されば助かります。

第7回岩木山講座「春の雪上観察会」

日時 2021年3月14日(日)9時50分 嶽温泉駐車場集合

場所 嶽温泉

岩木山の麓は全て伐採され、残るのは神社とか温泉場など私有地だけである。嶽温泉湯の沢の右岸では栗の老木、つるまさきの老木、ヤマナシの老木などが観察できる。全身にヤドリギをまとったヤマナシの老木は神秘的でさえある。

2021年度岩木山を考える会総会開催のご案内

日時 2021年4月4日(日) 午後1時30分～3時30分

場所 弘前市民会館 中会議室

多くの会員の皆様の出席をお願いします。

活動報告

岩木山講座④ 白岩森林公園散策とキノコ汁

日時 10月18日(日)10時～14時

秋晴れの中、一般会員4名と幹事5名の計9名が参加して、平川市にある白岩森林公園での森林散策とキノコ汁の企画を行いました。10時に集合し、駐車場から車道を少し上って白岩直下の東屋

の方から森林の散策を開始しました。東屋のところからは白岩が良く見えましたが、阿部先生からは、昔はこの白岩を掘り取って利用していたことや、公園として整備されているが、サクラやツツジなど本来この場所には無い植物類が植えられており、自然ではないことなどのお話がありました。

白岩は火山灰による凝灰岩の一種ですが、近くで見ると本当に真っ白で、なぜここだけあるのか、どのような経緯で形成されたのか不思議です。近くにはツツジが狂い咲きしており、今年の天候異常を思わせました。そこから森林に入り、様々なキノコや花、トチの実、ガマズミの実などを観察し、それらにまつわる雑談をしながら散策して、寺屋敷跡まで登ってから11時半頃に駐車場に戻りました。残念ながら想定通りにさもだし類は採取出来ませんでした。あらかじめ入手しておいたキノコ類で武尾さんがキノコ汁を用意しておいてくれたので、それを堪能しながらの昼食になりました。私が持って行ったポポーをデザートに食べましたが、大館から参加された木村さんからは沢山のポポーのお土産が提供されました。



荒川 修 記

「白岩森林公園散策とキノコ汁」に参加して

去る10月18日、今年度の第4回講座である「白岩森林公園散策とキノコ汁」に参加しました。当日は秋晴れの好天に恵まれ、自家用車を運転しながら、高山から山麓や野山へ降りてきた紅葉に目をやり、所静かな山峡の目的地へと到着しました。

いつものことであるが、目的地までの途中、暫時の休憩を兼ねながら沿線の「道の駅」への立ち寄りが好きな私は、この度もその例にもれず、碓ヶ関の道の駅に立ち寄り、買うか買わないは別として、各種、店頭に並べられた旬のものや他の特産物を見て回りました。

さて、肝心の「白岩森林公園散策」等の件について感想を申し上げます。

目的の場所は平川市の東方にあり、平賀の中心部を過ぎますと、周囲をリンゴ畑に囲まれた狭隘な道路となり、時々、実るリンゴの光景に目を移しながら暫く走ると、やがて、山峡の目的地にある駐車場へとたどり着きました。

次に、その駐車場で、阿部先生から、散策に関する経路や所要時間に関する説明を受けた後、今回、目的の一つである散策開始となりました。散策途中の要所では、「白岩」と呼ばれている所以や当山に生い茂る木々や草花についての説明を聞き、ゆっくりとした1時間程度の散策を楽しみながら、全員無事にこれを終えたのであります。

当日、この散策を終えて感じたことは、先ず第一に、白い岩肌をした正に「白岩」そのものを現地で直接目にし、周囲を緑の木々等に囲まれた中でその綺麗さに感動したということであります。散策のコースはそれなりに手入れされており、低山ながら急勾配の箇所もありましたが、天候に恵まれたこともあって、程良く汗をかき、何かしら山の恵みはないかと期待しながらのひと時でもありました。そして、私が手にしたものは数個のキノコ「サモダシ(ナラタケ)」で、収穫したと言える程ではありませんが、生来、登山はもちろんタケノコをはじめ山菜取りの好きな私には、久しぶりに山の恵みにありつけたというささ

やかな喜びの一瞬でもあったのです。

また、この喜びの意味は、数年前、熊の出没により各地で多くの人命が失われましたが、これにより、身近にも危険が迫りつつあることを憂慮し、以後、私は近隣の山々への足向けを固く絶って来たため、たとえ感動は小さくともふと昔日の思いが蘇ったということにもあります。

一方、当日の散策で一つ残念なことがありました。それは「八甲田山が見える展望台」まで行けなかったことであります。ただ、その間の事情を聴いたところ、近年、当該展望台付近の木々が大きく伸長したため、それに遮られて八甲田山が見えない状態になっているとのことであります。このことは、返す返すも残念であります。自然の為せるそういう事情には抗う術もなく、ただこれを素直に受け入れざるを得ません。

散策を終わってからもう一つの楽しみは、恒例の「キノコ汁」であります。

毎年・毎回、会員諸氏が、ご苦労されて採取した様々な旬のキノコ入り豚汁は、いつも美味そのもので、今年も、小生は遠慮も礼儀も脇に追いやり、何回もお代わりをしたという次第ですが、後で静かに考えてみますと、誠に無礼千万なことをしたと深く反省しているところでもあります。

閑話休題 余録としてこの機会に当たり、若干の追記をお許し願いたいと思います。私は、今から15年程前、「岩木山を考える会・創立10周年記念講演会」を契機に、当会へ入会させて頂きましたが、その端緒は、インターネットで「岩木山」に関する情報を検索している時でした。というのは、私事で恐縮ですが、1964(昭和39)年、高校2年の時に、大館鳳鳴の「同期生等4名が厳冬の岩木山で遭難」という悲しい出来事があったからであります。また、このことをもう少し詳細に述べますと、当該遭難発生時における山行者は、搜索依頼連絡者と奇跡的生還者を加え計6名となりますが、この中で、私は、1・2年次を通じ4名の方と同クラスに所属していたのであります。その内訳は、リーダーと1年次に、また遭難時の2年次には、搜索依頼者、奇跡的生還者、遭難者の3名と同クラスであったのです。

そしてこの時、まだ人生経験浅い17歳の胸に刻まれた悲哀は、肉親のことにも似たような感情となって今なおわが胸の奥底に消えないもの一つとなりました。

当時、私自身が山岳部に所属していた訳ではありませんが、クラス代表の立場と生徒会の中核にいた関係(3年次には生徒会長)からして、その対処の仕方等、生徒の分際ながらもそれなりに苦悩を重ね、ごく平凡な小生の人生において、後には教訓となったものも多々あります、そしてあの日から、私は、彼ら「遭難者の永代供養を提唱」し、微力ながら、今日に至るまで、ご遺族や母校当局と協力しながら、その慰霊・供養を継続してきた次第であります。

また、当該遭難者の慰霊等に当たっては、これまで当会から様々な形態でご協力やご支援を頂いていることも、入会して初めて知りましたが、この際、このことも併記しまして、私としての立場からのお礼と致します。

なお、このことについては、本稿の主旨ではありませんので、また機会があればその時に譲ることとし、かたや紙数の限度もありますので、この辺で筆を休め、誠に拙稿ではありますが、これを持ちまして、この度の講座に関する感想文とさせていただきますと思います。

岩木山を考える会会員・大館鳳鳴高校十七会 会長 木村 繁美

岩木山講座⑤「廻堰大溜池で渡り鳥と岩木山を観る」報告

11月15日(日)、昨年同様、日本野鳥の会弘前支部の方の案内で行いました。今年の参加者は総勢10名でした。ゆとりの駐車場に集合した後、つがる富士見荘入口の空き地まで車を移動。そこから鶴

の舞橋東端に歩いて向かいました。今年は穏やかな日とで観察会には絶好。観光客もたくさん来ていました。堰にはたくさんの野鳥が羽を休めていました。とりわけ注目されたのがハクガン(白雁)で、青森県ではあまり見ることが少ない鳥だとのことで、望遠レンズを抱えた多くの愛好家が撮影に来ていました。野鳥の会の方が数えたところ420羽ほどいたそうです。橋の近くにはオナガガモ(尾長鴨)が沢山羽を休めていました。西岸遠くにはマガン(真雁)が羽を休めていましたが、上空にオジロワシ(尾白鷺)が2羽姿を現すと一斉に飛び立つ様子が見られました。



11時頃から、車で砂沢ため池に移動しました。残念ながらあまり多くの野鳥はいませんでした。ちらほら浮かんでいるコガモやマガモをゆっくり観察し、くっきり見えていた岩木山を眺めながら12時に無事終了しました。

今回観察できた野鳥は、オナガガモ(尾長鴨)、ハクガン(白雁)、マガン(真雁)、カワウ(川鶺)、アオサギ(青鷺)、ダイサギ(大鷺)、ハクチョウ(白鳥)、オジロワシ(尾白鷺)、コガモ(小鴨)、マガモ(真鴨)などでした。

竹浪 純 記

廻堰で岩木山を観る観察会に参加して

11月15日、鶴田の廻堰と弘前の砂沢溜池で行われた野鳥の観察会に参加した。白鳥とサギの違いは分かるが、カモの仲間などほとんどわからない。考えてみればわからないはずだ。もともと目がよくないのに、遠くから飛んでいるのや動いているのを見るだけだったのだから。

今回、望遠鏡で見て、目やクチバシ、尾の羽の違いなどの説明を受けて、なるほどと思った。

植物と違って、間近でじっくり見ることがないので、すでにだいたい忘れてしまったが、オナガとか名前前にその鳥の特徴がついているのは覚えやすいと感じた。

佐藤文猛 記

追子森登山道が間伐作業で壊され、その後の修復に至るてんまつ(10~11月にかけて)

10月中旬、岩木山を考える会の Facebook サイトに「追子森登山道の一部が、間伐用作業道がつけられたためドロドロになって歩けない状態だ」との情報提供が画像と共に寄せられました。そこで10月21日、事務局が調査に入ったところ、スギやカラマツの間伐作業で標高700mから750mに至る部分の登山道が壊されていました。一部、登山靴が埋まるほどのぬかるみとなり、しかも道迷いを起こしかねない状況だったので、すぐ津軽森林管理署に電話をし、道路の修復と道迷い対策を講じることを申し入れました。

10月30日(金)、津軽森林管理署担当者より連絡があり、29日に現地確認をしてきたこと、登山道ルートが不明瞭になっているので、迷わないような仮措置をしてきたこと、今後、仮措置をした箇所

へのラミネート標識の設置、ぬかるんだ箇所の水切り作業の実施などが伝えられました。

11月9日(月)、津軽森林管理署担当者より連絡をいただきました。それによると、11月6日に修復作業をし、①迷ってしまう箇所に、ロープとラミネート標識を設置した。②泥濘箇所を均し、排水のための水切りを設置した。とのことでした。

11月15日(日)、事務局が再度確認に行きました。道迷いを防止する標識の取り付けは、トラロープにラミネートをくっつけて山頂方面を矢印で示していました。登山者の足跡が雪の上に残されており、迷った形跡はなかったのでひとまず安心です。しかし、雪解け後標識が残っているか確認が必要です。また、水切りの作業は行われていましたが、標高750m付近に大きな水溜が出来ていました。雪が解けるとぬかるみになることは必至なので、春に再度水切り作業が必要と思われます。津軽森林管理署も、春に再度作業を行うと言っていますので期待したいと思います。津軽森林管理署からは、ぬかるんだ登山道がまた元通りに回復するまで2年ほどかかるだろうとの見通しをいただいています。この間は、少し我慢をしなければなりませんね。



登山道がブルドーザーで壊されていた。
途中、水切りをしているが泥濘状態に



迷う場所にはラミネートの標識を設置



標高750m 付近の大きな水たまり

10月12日(月)、当会の要望について弘前市観光課と懇談をし、一定の見解を得ました

弘前市観光課は岩木山環境保全協議会の事務局を担っています。そこで、会報82号で一部紹介した、8月に岩木山環境保全協議会総会の場で当会が要望した事項について、改めて見解を伺いました。

出席者は、谷淵孝太氏(観光課観光企画係長)、吹田昂平氏(観光企画係主事)、福士太陽氏(観光企画係主事)の3名。当会より、阿部東、金枝壽孝、竹浪純の3名。

その結果、以下の内容が確認されました(一部掲載)。当会の要望を弘前市として対応してもらったことについては、課題を前向きに解決していこうという姿勢と受け止めます。しかし、8月の総会で提起した内容はこの間繰り返し要望してきた内容でもあり、対応の基本が「2021年度の予算請求事案」ということでは迅速さに欠けていると言わざるを得ません。予算請求が通ることを願うものです。また検討事項もいくつかあるので、検討結果については引き続き機会をとらえて確認する必要があります。(市の見解の文言については、市観光課が確認済)

1. 赤倉登山道

鬼の土俵から頂上付近まで草木が相当に繁茂しており、ところどころ足元が見えない状態の場所もあるなどジャングルの様相を呈してきています。歩きにくいため、特別保護地区のエリア内で登山道沿いの樹木が伐採されている部分もあり、速やかに対策を講ずることが必要です。また26番観音付近の登山道崩壊が危惧されるので安全確保のための対応が必要です。

大鳴沢源頭は7月の半ばまで雪渓が残っています。滑落による怪我の注意喚起が必要です。

<要望・提案>

- ① 径の確保のための刈り払いをお願いします。
- ② 26番観音付近は立入禁止にして迂回路に誘導するように立て札をつけて下さい。
- ③ 鬼の土俵から大開に至る途上、コメツガが倒れ道をふさいでいます。撤去が必要です。
- ④ 登山口に、「7月中旬まで雪渓が残っており、滑落に注意」等、登山者への注意喚起の看板を立ててはどうでしょうか。これはその他の登山道にも必要な措置だと思います。(長平登山道入口看板が参考になります。)

<市の見解>

- ① 赤倉登山道は市が貸付を受けていないので、所有者(国)が整備すべき。観光客等の利用状況によっては市が必要な手続きを取った上で整備する可能性もあり、市が全くかかわらないというわけではない。
- ② (当会)森林管理署に要請したとしても、事は進まないことは明らかなので、だからこそ協議会の場で会員から出される意見・要望を、単に「その他」の項目として意見を上げさせるだけではなく、正式に議題として取り上げ協議できるようにすべきと主張。⇒(市)主張は理解できる。協議会のあり方について今議論をしている。

2. 弥生登山道

昨年7月24日、弘大農生科学部の^{つおうちん}鄒青穎先生(自然災害科学・防災学)に依頼し、8合目から9合目にかけて耳成岩下部をトラバースする部分に見られた登山道の亀裂について調査していただきました。1年経った今年、地盤のずれが拡大しているようにも見えます。^{つお}鄒先生が指摘しているように、登山者に対する注意喚起が必要です。

<要望・提案>

- ① 8合目から9合目にかけて耳成岩下部をトラバースする部分に注意喚起の立て札をつけて下さい。

<市の見解>

- ① 「津軽百年の森づくり」に管理してもらっている登山道であり、立て札を津軽百年の森が立てるべきか、市が立てるべきか、線引きが不明確だったので、きちんとさせたい。

3. 百沢登山道

焼止避難小屋から大沢に入り200mほど上方、滝を乗り越えるために沢の右岸を巻く部分は相変わらず危険を感じる場所です。百沢登山道は多くの登山者が通るので、安全の確保は万全を期すべきだと思います。また、7月上旬広範囲に残っている急斜面の雪渓を運動靴などで登っている登山者がいます。登山者に対する注意喚起を登山道入口ですべきではないでしょうか。

<要望・提案>

- ① 焼止から大沢に入って200m程上部、登山道が大沢右岸を巻く部分に、太いロープ又は鎖などで身体が確保できるようにしてください。
- ② 雪渓滑落注意等の看板を入口に立ててはどうでしょうか(長平登山道入口看板が参考になります)。焼止避難小屋の壁に取り付けてもいいかとは思いますが。

<市の見解>

- ① 百沢登山道は市が貸付を受けていないので難しい。
- ② 焼止及び鳳鳴避難小屋の改修については来年度の予算要求をしている。

4. 鳳鳴避難小屋から頂上に至るおみ坂部分

頂上から100mほど下の登山道を支えている材木や看板などが朽ち果てる寸前になってきています。ここは観光客も多く通ることですし、環境維持の観点からも更新作業が必要ではないでしょうか。

<要望・提案>

- ① 倒れている看板や朽ち果てつつある土留めの材木などの更新、整備をお願いします。

<市の見解>

- ① 日赤岩木山パトロール隊に管理協力をいただいている登山道であり、相談して対応を検討する。→日赤岩木山パトロール隊より、「確認はしているが整備に時間がかかる。順次対応したい。」と回答あり。

5. 焼止、鳳鳴小屋等整備の件(一部略)

山頂のトイレのドアの下部が壊れたままになっています。修繕が必要ではないでしょうか。

<要望・提案(一部略)>

- ① 山頂のトイレの入口のドアの修繕をお願いします。

<市の見解>

- ① 山頂トイレドアの改修は来年度に向け予算要求をしている。

6. 登山者の把握の件

入山ポストについては、この間、嶽、百沢、弥生の3カ所に設置されており、去年の総会で、H30年1年間で572通(人数1455人)の投函があった旨の報告がありました。利用が図られているようなので、今後残りの登山道への整備も含め検討をお願いします。また英文の様式を作成することも了解を得たはずですが、設置に至っていないようです。

最近、インターネットを通じて入山届をしている方が増えています。入山者数を把握するために、こ

うした登山者の入山状況を把握する必要があるのではと考えます。

<要望・提案>

- ① 岩木山登山道残りの二つ、長平登山道と赤倉登山道への設置をお願いします。
- ② 外国人にも対応できるように、表示や計画書の様式が英文のものを作成してください。
- ③ 投函に伴うデータは毎年公表してください(登山道別のデータも公表してください)。
- ④ 登山者数をより正確に把握するために、WEBを通じての登山計画書などの数値の把握と公表をお願いします。

<市の見解>

- ① 弘前警察署地域課のデータ集計待ち。会議開催等に合わせてデータ公表を求めており、引き続きデータ公表を求めていきたい。
- ② 嶽登山口のポストの冬期間移動の件は了解した。
- ③ 英文の計画書の設置については検討する。

7. 登山者への啓発活動の件

登山者はもちろん、岩木スカイラインを利用する観光客を視野に入れた、啓発活動が必要ではないでしょうか。また外国人登山者が増えていることから、対応が必要です。

- ① 各登山道入口に、登山の心得・注意点、残雪時の必要装備などを記した看板の設置をお願いします。長平登山道の入口にはきちんとした看板が設置されています。こうした看板がそれぞれの登山道にもあれば、登山者にとってはとても安心できると思います。
- ② スカイライン終点リフト乗り場に、服装やトイレの注意看板を立てて下さい。
- ③ 外国人旅行客向けに看板には英語の記載もお願いします。
- ④ パンフレットに各登山道のトイレの場所の明記、携帯トイレ使用の勧めを付け加えて下さい。

<市の見解>

- ① 岩木山スカイラインのリフト乗り場付近への注意看板設置については検討する。

8. 岩木山登山道整備のあり方の件

- ① 各登山道の整備は、一昨年来、民間団体に委託のような形になっています。しかし、いざ事故が発生した場合の責任の所在など大きな問題になりかねません。それ以前のやり方(関係者の意見・指摘に基づき、市が責任をもって整備をする。)に戻すべきだと考えます。ご検討ください。
- ② 現在、岩木山に設置されている登山道の中で、当岩木山環境保全協議会の守備範囲は、長平・追子森が含まれておりません。ここは鯉ヶ沢町の管轄だからということですが、岩木山を一体的にとらえた時に自治体管轄を超えた協議の場が必要ではないかと考えます。そこで、当環境保全協議会に鯉ヶ沢町や地元の団体にも加わっていただければ、より岩木山全体の安全を包括的に捉えることが出来るのではないかと考えます。そのような方向で調整できないものではないでしょうか。

<市の見解>

- ① 今後鯉ヶ沢町に協議会のメンバーに加わってもらうことを検討する。

9. その他

- ① 岩木山環境保全協議会の会員同士のつながりをもう少し密にして、日常的に情報を交換できるようなプラットフォームの工夫が出来ないでしょうか。今回嶽登山道を横切る作業道がつけられていた件でも、こうしたプラットフォーム(メーリングリスト等)があれば、お知らせなどを掲載し

たり、気軽に問い合わせなどが出来ると思います。よろしくご配慮ください。

<市の見解>

- ① メーリングリスト等のプラットフォームの設置については、各会員から代表メールを登録してもらったので、登録されたメールで交流・情報交換できる。

竹浪 純 記

11/27(金)白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会に参加してきました(於、能代)

昨年から開催されることになり、去年弘前で行われた懇談会ですが、今年は会場を秋田県能代市に移して開催されました。当会からは事務局が参加し、主催者からの報告と秋田の方々の意見を聞いてきました。

全体で40名の参集、2時間の時間枠の中で1時間半説明があり、残り30分が質疑応答の時間でした。説明は以下の4点でした。

遺産地域の保全管理の概要	東北地方環境事務所
生態系の保全について	東北地方環境事務所
入山利用等の状況について	東北森林管理局
白神山地の適正な利用について	秋田県自然保護課

メインの環境省の報告者が早口でとても聞き取りにくかったのが残念です。参加者から出された質疑・意見の主なもの以下の通りでした。事前に質問事項を出してもらい、報告の中でそれに対する回答もしていたのですが、早口でメモする余裕もありませんでした。せめて文字にして回答すべきではないでしょうか。

- ・ 世界遺産のコア部分には報道関係者も入れる必要なし。ガイドの育成とあるが、コアには入らないのだからガイド養成も必要ない。青森にコア部分のルートが設定されているが、二股のテン場となっている部分にたき火や伐採、オオバコの増加が見られる。人が入ることによりこういう問題が出て来る。秋田側はルートを作る必要はない。
- ・ ニツ森登山道の途中、100m弱の区間が危険で転げ落ちた人がいる。登山道を途中から新規に作り直してほしい。
- ・ 秋田県側は人を入れるべきではない。報道関係は入れてもいいのではないか。入れることによって原始的な自然に影響を及ぼすとは思わない。優れた自然を残すことが必要だ。バッファゾーン外側でも自然はつながっている。遺産周辺部分はもっと利用されてもいいと思う。
- ・ 岳岱と似たような遊歩道ルートを作してほしい。秋田側は見る場所が少ない。人が来て楽しめる場を増やすことが必要だ。
- ・ 岳岱の自然体験塾をもっと旺盛にやったらどうか。県南からも子どもたちを連れてきて体験させるのも一案。

4人の質疑応答で時間がなくなってしまう、当会からの発言は遠慮しました。気になった部分は、生態系の保全状況について基本的な報告がなかったことと、クマゲラの観測が既に10年近く途絶えていることについて触れられていなかったことです。小学校総合学習授業での啓発活動の報告がありましたが、どの程度の規模で行っているのでしょうか。青森県の生徒数は8万5千人です。

竹浪 純 記

会員継続と2020年度会費納入のお願い



平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年の会費を未納の方には引き続き、会員継続とご協力をよろしく願いいたします。

幹事募集と幹事会への参加呼びかけ



岩木山を考える会の企画・運営に参加してくださる方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか?日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなど、ざっくばらんにお聞かせください。
場所&時間:百石町展示館2階 第3展示室にて 午後6時~。

※編集後記

12月の初旬までは割と暖かく雪も少なかったのですがその分の反動が一気に来て今猛烈な寒波に見舞われております。これだけの寒波が来るとまず心配なのはりんごが凍らないかということ。倉庫に積んであるりんごも凍らないよう念のため灯油ストーブをつけてきました。

さて、我が家には猫に続いて犬がやって来ました。友人の飼っている犬が四匹子どもを産んでそのうちの一匹を貰ってきました。今は生後半年ほどですが体もぐんぐん大きくなり寒波をものともせず走り回っています。二ホンミツバチを飼っていることもあり、熊が近寄ら

ないよう番犬として飼い始めた部分もありますが、とにかく毎晩のように夜の闇に向かって吠えます。一度、吠えた先に何がいるのか見に行ったら狸かアナグマかそんなに大きくない獣がいました。益々賑やかになった我が家。上の子は来年中学校、動物も人間も日々成長しています。

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第83号(2020年12月24日)発行/岩木山を考える会 会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15/電話0172-87-1910 事務局長 竹浪 純/電話070-6952-2614 郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会
